

# 広報 三重支所 平成 29 年秋号

長崎市役所 三重支所 H29.8.24 No.3  
〒851-2204 長崎市三重町 1098 番地 1  
電話 095-850-1111 / FAX095-840-1001  
メールアドレス br\_mie@city.nagasaki.lg.jp  
営業時間 平日 8:45～17:30

## ○畝刈小学校区内 5 自治会で地域防災マップづくりが行われました

平成 29 年 7 月 14 日（金）三重地区市民センターにて、三重地区では三重平地 5 自治会での取組みに続き、畝刈小学校区内 5 自治会（畝刈、多以良、沖平、京泊、三京）主催により地域防災マップづくりが行われました。このマップづくりにあたり、講師を市民防災リーダーの早崎常男さん（長崎市消防局 OB）と防災危機管理室職員が行いました。自治会単位に分かれ話し合い、危険箇所、避難場所、避難経路等を白地図に記入し「地域防災マップ」を作り上げていきました。地域防災マップづくりに興味関心がある自治会は防災危機管理室（TEL822-0480）へ連絡をお願いします。



## ○三重地区まちづくり懇談会が開催されました

平成 29 年 8 月 20 日（日）三重地区市民センターにて、三重地区連合自治会、三重地区老人クラブ連合会、三重地区民生委員児童委員協議会の主催により「三重地区まちづくり懇談会」が開催され約 80 人が参加しました。



懇談会は 2 部構成で、第 1 部では市企画財政部都市経営室原田宏子室長により「個性をもった魅力的なまち長崎」をテーマに講話がありました。

第 2 部では、地区内の自治会や老人クラブ、補導員、小中学校、育友会等各種団体がグループに分かれ、「三重地区のいいところ、心配なところ」について意見交換し、その後「今後三重地区をどんなまちにしたいか」についても意見交換しました。

懇談会参加者の主な感想は次のとおりです。（一部抜粋）

- ・若い世代の人たちが地域の中心になることが望ましい。（自治会関係）
- ・この懇談会がまちづくりのスタートになると感じた。（自治会関係）
- ・いろんな世代の人の意見が聞けたことがよかった。（老人クラブ関係）
- ・この懇談会を通して、小学生でも町のために行動することができると思った。（小学生）
- ・自分でできそうなことは自分から取り組んでいきたい。（小学生）
- ・これからの三重をより良いものにしていく良い機会になった。（中学・高校生）
- ・三重地区を良くしたいという考えは皆同じであることを感じた。（各種団体）
- ・気持ちを共有し継続した取り組みが大切だと感じた。（各種団体）

## ○畝刈小学校で防災キャンプが行われました

平成 29 年 7 月 22 日（土）、23 日（日）畝刈小学校にて、畝刈小学校育友会主催により防災キャンプが行われ約 100 人の児童が参加しました。初日は、プールにて水難訓練、野外での空き缶炊飯、体育館に宿泊し避難所での生活環境を模擬体験しました。



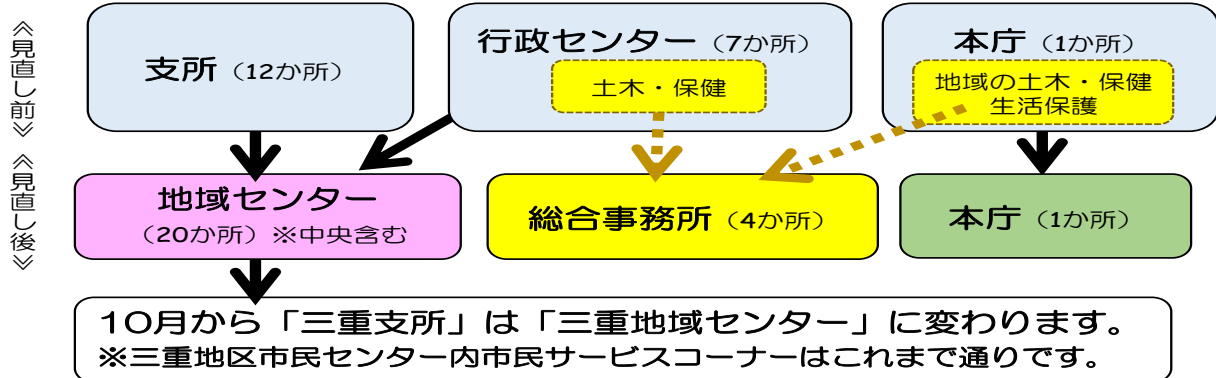
2 日目は市消防局北消防署指導の下、火災時の建物に煙が充満している中での避難、放水・レスキュー機器操作、救助袋による高層階からの降下、負傷者への応急措置、はしご車搭乗など様々な体験を通じて防災意識の向上が図られました。

## ○今年 10 月から支所・行政センターは「地域センター」に変わります！

### なぜ変わる？

- 近隣の町や村との合併により市域が拡大
- 地域ごとにさまざまな歴史や特性がある
- 「支所」や「行政センター」でサービスの内容や職員数に違いがある

### どう変わる？



### 地域センター

#### ～住民・地域の窓口～

- ・ 地域のまちづくりの相談受付
- ・ 証明（戸籍、住民票、市税 など）
- ・ 届出（出生届、婚姻届、児童手当の現況届など）
- ・ 申請など（国民健康保険や子ども医療費の資格取得、障害者手帳の交付申請、生活保護に関する受付など）

### 総合事務所

#### ～職員が現場に出向く拠点～

- ・ まちづくり活動の支援
  - ・ 土木（生活道路、公園や農林道の改良、維持補修など）
  - ・ 保健（地域で行う健康教室や健康相談など）
  - ・ 生活保護（訪問調査、決定）
- ※ 部長を置いて、予算と権限を持ちます。

※さらに詳しい取扱い業務については、「広報ながさき9月号折込特集」でのお知らせを予定しています。

### どこに行けば良い？

**個人や地域の代表のかたは、まずは、地域センターへお越しください！**

## ◎特集 「市長の地域説明会～地域コミュニティのしくみづくりなど～」 質疑応答

広報三重支所平成 29 年夏号でご紹介しました、「市長の地域説明会～地域コミュニティのしくみづくりなど～」開催時に出された質問等に対する回答を一部ですがご紹介します。

- 1 開催日時 平成 29 年 5 月 23 日（火） 19 時 00 分～21 時 20 分
- 2 場 所 三重地区市民センター多目的ホール
- 3 参加者 73 人

### <（仮称）地域コミュニティ連絡協議会（以下、「協議会」という。）について>

●加入する団体を集めるのが大変。子どもが多い自治会が連合自治会に加入していない。

- ・協議会をつくる最初の話し合いの場にたくさんの団体、人に来てもらうことが大切。地域の方々の話をお聞きしながら、地域コミュニティ推進室や支所（地域センター）、新しく出来る総合事務所などの職員も一緒になって、話し合いの場に多くの団体の方々に参加していただけるよう努力する。

●育成協は多くの団体で構成されているが、役員や決まった団体などの一部の人が頑張っているだけである。協議会と名前だけ変えても、同じように決まった団体や人だけが活動することになって、意味がないのではないか。現在ある団体に対して、具体的にこうするべきだと市役所から提示することの方が大事だと思う。

- ・地域の皆さんで話し合っ、まちづくり計画書を作成することによって、地域の課題は何か、どうやって取り組んでいくべきかを地域の方々に共有できることが、既存の団体と協議会が大きく違うところであると考えている。まちづくり計画書の作成や、課題を知り、解決していく過程の中で、加入団体が増えていき、良い循環が生まれることを期待している。

●若い人の自治会加入を増やす方法として、PTA や育成協等と連携して自治会の重要性を伝えるのはどうか。また、団体を引っ張るリーダーを見つけていくことも大事だと思う。

- ・若い父親、母親世代に自治会の重要性を理解していただくことは大切である。どう発信していくか考え、取り組んでいかなければならない。協議会設立の過程、また協議会の活動の中でも、自治会や民生委員の活動について紹介をすることで、若い世代の方々に知っていただきたい。リーダーについても、協議会に様々な団体に参加していただく中で発掘していければと考えている。

●協議会は三重地区に必要だと思う。育成協や民生委員だけでは活動が厳しいところもある。だが、実際に協議会設立に取り組むのは大変難しいと思う。行政にも手伝ってほしい。

- ・団体単体では難しいこともあるかと思う。協議会のなかで情報を共有することにより、団体同士がつながることができると考えている。市役所としてもまちづくりの情報等、有益な情報を地域に提供していきたい。また、協議会設立にあたっては、地域コミュニティ推進室が地域の方々と話ししながら一緒にやっていく。

●まちづくり計画書とはどんな計画書になるのか。

- ・参考例として、既に作成している地域のまちづくり計画書をいくつか持って、各小学校区で説明していく。地域によって様々で、おおまかな目標だけ掲げているところもあれば、事業のことまで詳しく書かれている計画書もある。基本的には目指す姿、分野ごとの柱、柱ごとの方向性などが要件となる予定だが、それぞれの地域に合った計画書を作っていただきたい。

<交付金について>

●交付金の算定基準はどう決まるのか。

- ・現時点での案としては、市全体として500円×人口を算定基礎とし、1年間あたり2億円程度を交付金に充てたいと考えている。地域にどう配分するかについては、素案をつくり地域の方々に意見をいただきたい。現在、まちづくりのための基金が40億円程度あり、これを毎年2億円使うとして20年はもつ。ただし、20年後のこともあるので、しっかり考えていきたいと思う。

<行政サテライト機能再編成について>

●総合事務所の役割がわからない。

- ・まちづくり活動の支援や土木（公園や市道、農林道の補修等）、保健、生活保護のケースワーク等の業務をおこなう。地域に近いところに専門職員を配置することで、地域に出ていきやすくなると想定している。地域の方々が総合事務所に出向くことは基本的にない。
- ・各総合事務所に部長級の職員を置き、一定の権限を持たせることで、地域の課題に対して地域で解決の判断が早くできるようになる。

●地域センターになったら市民サービスコーナーはどうなるのか。また、職員は増えるのか。

- ・市民サービスコーナーは変わらない。職員数は、三重支所、三重地区市民サービスコーナーを合わせて、現在正規と再任用が8人であるが、9人になる予定。

●今までは本庁1つで情報共有できていたのが、総合事務所として4つに分かれることによってそれぞれに温度差が出るのではないかと。一方の総合事務所できたことが、別の総合事務所ではできない、といったことがあってはならない。

- ・これまでの全市的なバランスを考えた取り組み方では、対応に時間がかかるとの声が多かった。4つに分かれることでそれぞれの地域で優先順位をつけることができ、地域の特性に合った課題解決が早急にできるのではないかと考えている。
- ・対応のバラつきについては、予算を編成する過程の中で調整が必要である。取り扱いについては全市的な仕組みをつくらなければならない。

●畝刈小学校区は子どもが多い。子どもをもつ母親が、琴海まで相談に行くのは遠くて大変。母親たちが気軽に相談できる場所を作ってほしい。

- ・現在の三重支所が地域センターになり、地域センターで相談できるようになる。その後、必要に応じ保健師が総合事務所から出向くことになる。